

日本看護歴史学会 会報

日本看護歴史学会
創刊号
1987年10月15日

豊かな創造性を求め、 新たな息吹きを

亀山美知子

去る八月二十六日、日本看護歴史学会の第一回大会が、京都市立看護短期大学で開催されました。

当日は早朝より、東北、九州など遠路も厭わず上洛された方々をはじめ、全国から会員の皆様の御参加を頂いたほか、新聞や雑誌の広告などで会の開催を知って駆けつけて下さった方もあり、総勢約八十名の熱気が会場に溢れました。会の進行は、新鮮な息吹きを感じさせる中にも和気朗々とした雰囲気にも包まれてとり行われました。当日のアンケートの結果は別の機会に詳しく御紹介いたしますが、多くの方々に御満足頂けたようです。

まったく手さぐりの状態で会を準備した幹事一同としては、これ

に勝る喜びはございません。ここにあらためて参加者の皆様に御礼を申し上げる次第です。

すでに申し上げましたように、日本看護歴史学会は、広く看護に関する歴史(文化史を含む)を考究することを目的としております。それは、看護学自体が学際的学問分野であることと同様、無限の可能性を秘めたものであると信じております。会員の皆様方の関心分野を拝見しましても、非常に多岐にわたっていることが、そのことを如実に示していると思えます。しかしながら、従来、このように幅広い領域への高い関心を満たすための準備は、十分なされてい

たとは言いがたいものでした。学問

序ありとは申しませんが、会員各位が、時には師となり弟子となり合って交流を深めながら、多くのことを学んでいけるような会にしたいと存じます。幸い、看護史に関しては既にいくつかの会があります。これらの方々とともに論議を深めることによつて止揚できれば、看護学一般にとつても大変意義深いことであると思えます。そのためにも、基礎を十分ふまえて豊かな創造性を培っていただける会になるよう、皆様方の御努力と情熱に期待いたします。

ところで、総会
の場で発表いたしました
ましたが、本会では
は来る一九八八年
を近代看護婦発祥
百年と定め、記念
行事を予定して
おります。この具
体的な内容等につ
きましては、現在、
鋭意検討し準備を
はじめております
が、二十一世紀へ
向けて、看護婦に
対する社会的要請
が高まっているこ

とをかんがみ、国民的行事となるものを実施したいと考えております。しかしながら、何分にも身の丈にあまる計画ですから、皆様方の深い御理解と御援助を賜りたくお願いいたします。

日本看護歴史学会という新たな会の誕生に、皆様と共に立ち合えたことを何よりも有難く存じます。この息吹きを忘れることなく、会の成長を共に育てて参りたいものです。



大会会場風景

